

ながはまの文化財

市内には、国や県、市が指定した文化財がキラ星のごとく光り輝いています。このコーナーでは、数ある文化財の中から代表的なものをシリーズで紹介します。

滋賀県指定名勝「赤田氏庭園」 江戸時代初期(推定)

指定日：平成27年3月24日指定
平成30年10月30日追加指定
令和3年2月16日追加指定

めるようになり、庭園もこの頃に作られたと考えられます。勘兵衛道と呼ばれる屋敷に続く道や門番小屋、馬小屋や排水路といった庭園を取り巻く屋敷構えも江戸時代の庄屋屋敷の状況を良好に残しており、平成30年10月に追加指定されました。さらに令和3年2月には、大正期の露地を伴う離れ座敷なども含め、屋敷地全体が指定されました。赤田氏庭園は、庭園周辺の環境も併せて、ぜひご覧ください。



▲赤田氏庭園

太田町にある赤田氏庭園は、江戸時代初期に作られたと考えられる芸術的・学術的に価値の高い庭園です。特別名勝庭園である西本願寺大書院庭園「虎溪の庭」(京都市や、名勝福田寺庭園(米原市)にも通じる格式の高い浄土真宗系の作庭です。豊富な水源を活用し2本の水路から水流を作る手法や、座敷からみて正面右手にある滝水を落とす石の配置、石組みなどに独自性が見られます。江戸時代初期に遡る民家の庭園は全国的に類例が少ないです。

赤田氏は、戦国大名浅井氏の家臣で、浅井氏滅亡後、当時の当主であった信濃守「賢」の次男勘兵衛の頃に当地で帰農しました。元和5年(1619)頃から赤田氏が領内の庄屋を務

問 歴史遺産課(☎65・6510)

市長コラム⑬

至誠通天

藤井 勇治

※至誠通天
誠を尽くせば天が
味方してくれること



新型コロナウイルスの収束に向け 期待のワクチン接種が始まる

田植えも終わり、爽やかな風が青田を渡る季節になりました。市内各地は鮮やかな緑の風景に恵まれて心も和みます。

さて、新型コロナウイルスは依然として油断できない状況が続く一方、期待の「ワクチン」が開発され、本市においても既に医療従事者や施設利用の高齢者の皆さんへの接種が始まっています。

国においては、希望する高齢者に7月末を念頭に2回の接種を完了させるという方針が示されました。

本市においては、国のスケジュールに合わせ、できる限り最速での完了をめざし、約3万5千人の高齢者の皆さんが安心して接種を受けられるよう、全力をあげて準備しています。さらに、64歳以下の一般の皆さんについても、一日も早く接種できるように加速させていきます。

しかし、この接種を着実に進めるためには何よりもワクチンの安定確保と、さらに接種にあたる医師や医療スタッフの皆さんのご協力なしでは実現できません。大変なお力添え

をいただいている全ての皆さんに心から感謝申し上げるとともに、この予防接種の効果が発揮されて収束へ向かうことを期待します。

また、湖北医師会の強力な支援をいただきながら、診療所や開業医での個別接種に加え、市内各所に集団接種特設会場を設け、速やかな接種ができる環境を整えるとともに、接種予約が迅速かつ円滑に行えるよう、電話予約のコールセンターの開設とウェブ予約によるインターネットサイトを立ち上げました。くれぐれも焦らず慌てずに予約を行っていただきますようお願いいたします。

百年に一度といわれる事態ですが、皆が力を合わせ協力して必ず乗り越えましょう。

市民の皆さんの健康と命を守るために私が先頭に立ち、全庁あげて取り組みでまいります。一日も早く安心して日常を取り戻すため、皆さんのご協力をよろしくお願いします。



▲高齢者介護施設でのワクチン接種状況

のりしろ

のりしろ

5 2 6 8 7 9 0

長浜市八幡東町632

長浜市役所 政策デザイン課 広報報道室

「市民からのメッセージ」係 行

料金受取人払郵便

長浜局承認
321

差出有効期間
2022年5月31日
まで

切手を貼らずに
お出し下さい。

やま折り

のりしろ

市民の皆さんの声をお聞かせください 「市民からのメッセージ」

市民の皆さんの声を市政に反映し、暮らしやすいまちをつくるため、「市民からのメッセージ」を募集します。「広報ながはま」や市政に関する意見や提案をお聞かせください。

お寄せいただいたメッセージは、市民の皆さんと共有するため、今後、市ホームページで掲載する場合があります。

<様式の使い方>

- ①切り取り線(破線)に沿って切り、中央の線に沿ってやま折りにします。
- ②のりしろにのりを付けて、貼り合わせてください。
- ③切手は貼らずに、そのままポストへ投函してください。

【問合せ】長浜市役所 政策デザイン課 広報報道室
(電話65-6504 / FAX65-4006)

ながはまの自然 不思議発見!

エピソード 11 「ホタルのヒカリ」

市内の自然の不思議や、そこに住む様々な生き物の面白い生態などを紹介します。



▲川辺を舞うホタル(十里町)

今月は、初夏の夜の風物詩「ホタル」について紹介します。

「ホタル」という名前は、光りながら飛び姿を見て「火垂れるほたる」と言ったのが転じたとされており、光を点滅させながらゆっくり飛び交う姿が、古より人々の心をとらえていたようです。長浜で一般的によく見られるホタルはゲンジボタルで、長浜を含む西日本では、光の点滅が2秒間隔です。ところが、東日本では点滅の間隔が4秒間と長くなります。西日本のホタルは、光までせつちかだとよく笑い話に例えられますが、なぜそうなの

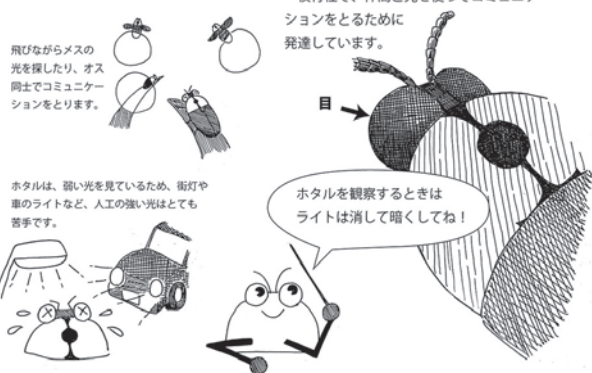
のかは判っていません。

長浜は、山間部から平地まで広範囲にわたりゲンジボタルを見ることが出来ます。特に市街地の中心部でも普通に見ることができ、これは市内の各所に冷たく澄んだ湧水地があり、周辺の水路に流れ込むことで、ゲンジボタルのエサとなるカワニナが好む環境が整っているからだと考えられます。長浜はホタルの街といっても過言ではありません。

ホタルが灯す命の明かり、少しせつちかな点滅を家の周辺でも観察してみてください。

問 湖北野鳥センター
(☎79・1289)

◆ホタルは目が命!



ホタルはとても目大きな昆虫です。夜行性で、仲間と光を使ってコミュニケーションをとるために発達しています。

飛びながらメスの光を探したり、オス同士でコミュニケーションをとります。

ホタルは、強い光を見ているため、街灯や車のライトなど、人工の強い光はとても苦手です。

ホタルを観察するときはライトは消して暗くしてね!